

令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立日出谷小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和4年4月19日(火)

4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語、算数、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【小学校 国語・算数・理科 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

小学校

<教科に関する調査> は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	69.1	70.4	69.0
我が国の言語文化に関する事項	1	89.4	80.7	77.9
話すこと・聞くこと	2	74.2	68.1	66.2
書くこと	2	51.5	49.7	48.5
読むこと	4	72.0	68.2	66.6

算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	69.7	69.9	69.8
図形	4	62.9	64.5	64.0
変化と関係	4	55.7	51.8	51.3
データの活用	3	71.7	69.2	68.7

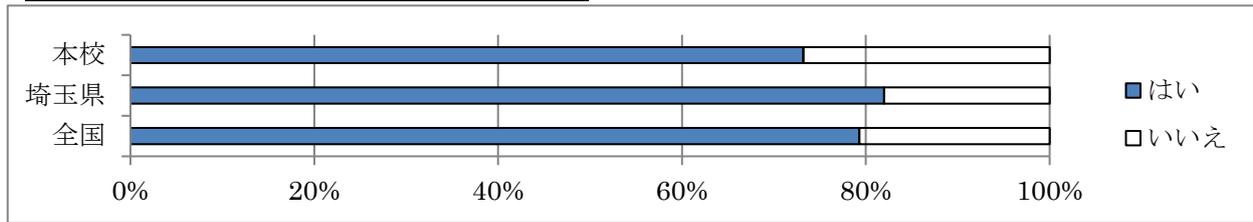
理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	4	51.1	52.5	51.6
「粒子」を柱とする領域	5	65.7	61.6	60.4
「生命」を柱とする領域	5	74.9	76.7	75.0
「地球」を柱とする領域	5	64.5	65.3	64.6

<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

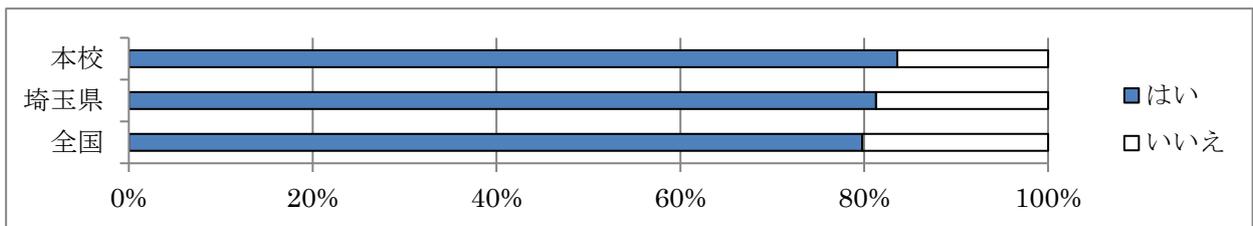
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

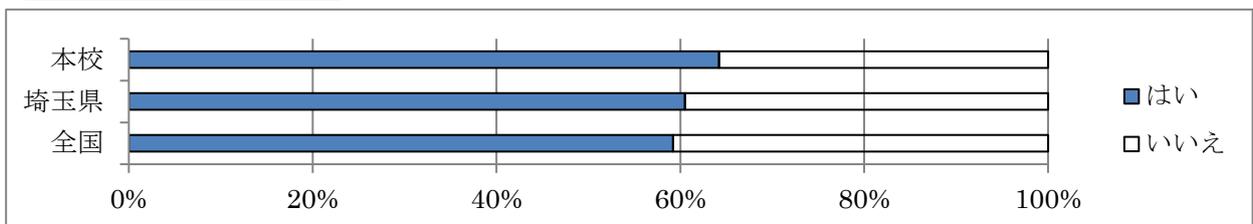
自分には良いところがあると思いますか



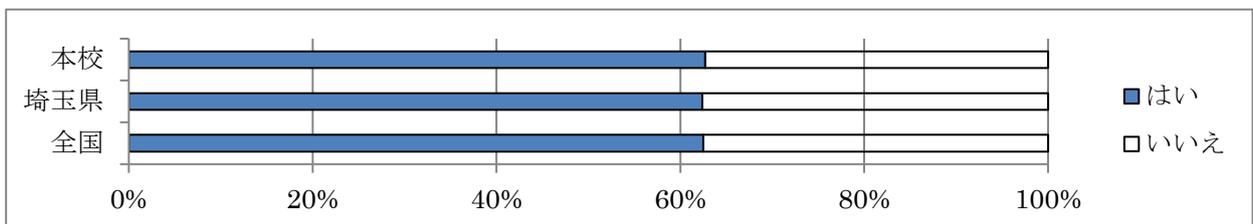
将来の夢や目標を持っていますか



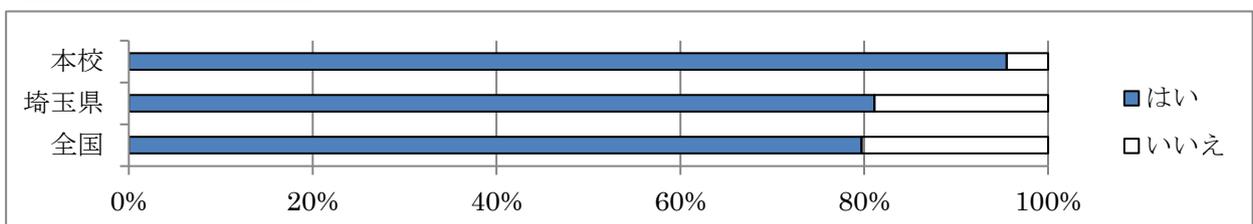
国語の勉強は好きですか



算数の勉強は好きですか



理科の勉強は好きです



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

すべての領域で、全国平均を上回ることができました。

問題形式の選択式の問題は正答率が高いですが、短答式の問題では正答率が低くなっています。

問題の内容では、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることはよくできています。しかし、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題があります。(はんせい) (したしむ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことはよくできています。

【問題3の三】

(イ) 次の _____ 部を漢字でていねいに書きましょう。

そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を 提案できなかつたことを はんせいしました。

(ウ) 次の _____ 部を漢字でていねいに書きましょう。

運動が苦手な人も したしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしょうかいしたいです。

【正答】

(イ) 「反省」と解答しているもの

(正答率：全国 58.7% 埼玉県 57.9% 本校 50.0%)

(ウ) 「親(しむ)」と解答しているもの

(正答率：全国 67.1% 埼玉県 68.8.9% 本校 59.1%)

【分析と改善策】

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかが大切です。

第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができるように意識しながら学習活動および授業改善を行っていきます。

<算 数>

「数と計算」「図形」の領域で全国平均を下回り、「変化と関係」「データの活用」の領域で全国平均を上回っています。

「数と計算」の領域では、二つの数の最小公倍数を求めることや、示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題があります。

「図形」の領域では、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題があります。

「変化と関係」の領域では、百分率で表された割合を分数で表すことができています。問題形式から見ると、記述式の正答率が選択式や短答式と比べると若干低いことがわかります。

【問題4の(1)】

コンピュータは、いろいろな命令を順序よく組み合わせて動かすことができます。この命令の組み合わせを「プログラム」といいます。

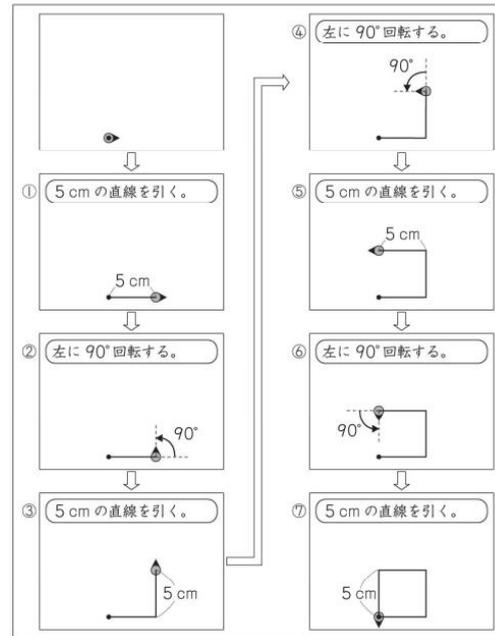
はなこさんたちは、プログラムをつくり、いろいろな図形をかこうとしています。



はなこ
まず、正方形をかきましょう。正方形は、4つの角が直角で、4つの辺の長さが等しい四角形ですね。

1辺が5cmの正方形をかくために、**正方形のプログラム**をつくりました。このプログラムを実行すると、右のように、スタート位置(●)から命令ごとに、●が▶の方向に進みながら直線を引いたり、矢印(↶)の向きに回転したりして、正方形をかくことができます。

正方形のプログラム

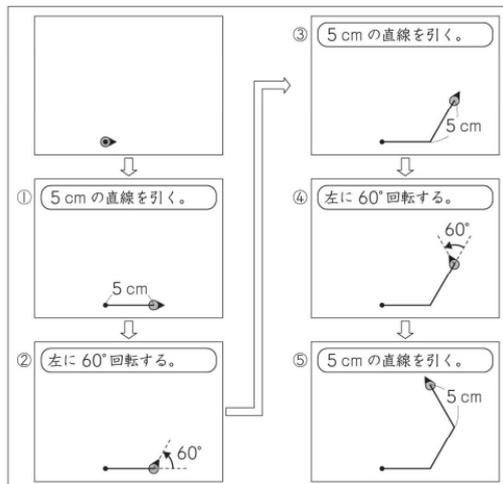


(1) はなこさんたちは、1辺が5cmの正三角形をかこうとしています。

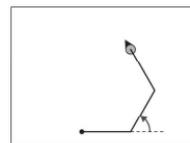


正三角形は、3つの辺の長さが等しくて、3つの角の大きさがすべて60°の三角形ですね。

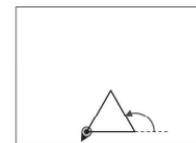
はなこさんは、**正方形のプログラム**をもとにして、正三角形をかくためのプログラムをつくり、実行しました。



はなこさんは、下のかこうとした正三角形をかくことができませんでした。



実際の結果



かこうとした正三角形

そこで、つくったプログラムを見直すことにしました。

つくったプログラム



5cmの直線を引く。
左に60°回転する。
2種類の命令のうち、どちらかの命令を直すとかこうとした正三角形ができますね。

かこうとした正三角形をかくには、どちらの命令を直すといですか。下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。また、その選んだ命令を、言葉と数を使って、正しい命令に書き直しましょう。

ア 5cmの直線を引く。

イ 左に60°回転する。

【正答】 (正答の条件)

記号を **イ** と選び、次の①、②の全てを書いている。

① 回転する向きである左を表す言葉

② 回転する角の大きさである 120° を表す数や言葉

(正答率：全国 48.8% 埼玉県 47.9% 本校 39.4%)

【分析と改善策】

ここでは、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述することが求められます。

図形の意味や性質を基に、図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方について考察できるようにすることが大切です。

プログラムでかこうとした正三角形をかくことができなかつた場面において、回転する角の大きさに着目し、角の大きさを柔軟に捉え、正しい命令について考えることが必要です。具体的には、四つの角の大きさが全て 90° である正方形のプログラムにおける構成の仕方を解釈し、正三角形の三つの角の大きさが全て 60° であることを基に、正三角形の一つの角の大きさである 60° と 180° の間にある数量的な関係を見いだすことが必要です。その際、正しい命令を記述する上で、次の二つの事柄を書くことが必要です。

- ・回転する向きが左であること
- ・回転する角の大きさが 120° であること

図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりすることが重要です。また、図形の構成の仕方について考察することも重要です。

そのために、例えば、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えることができるようにすることが大切です。また、辺の数や辺の長さ、角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断したり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることができるようにすることも大切です。

そこで、コンピュータを用いて図形を作図する際、正方形のプログラムを基に作成した正三角形のプログラムについて見直し、改善する文脈を設定したり、正方形のプログラムの一部を変えて、長方形やひし形のプログラムについて考察したり、示されたプログラムからどのような図形ができるかを判断したりすることができるように学習を展開していきます。

<理科>

「粒子」の領域では全国平均を上回りましたが、「エネルギー」「生命」「地球」の領域では全国平均をわずかに下回りました。

「粒子」の領域では、メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている児童の割合は非常に高い結果となりました。

「生命」の領域では、自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題には課題があります。また、観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる児童の割合は埼玉県や全国と比べて高くなりました。

- 1 ひろしさんたちは、ナナホシテントウのたまごを見つけました。
ひろしさんは、次のような【問題】を解決するために、ナナホシテントウを飼育しながら観察し、ようすが変化したときに、タブレット型端末に記録していくことにしました。

【問題】
「ナナホシテントウの育ち方は、どのような順なのだろうか。」



ひろしさん

〈ひろしさんの記録〉

ナナホシテントウの観察
5月16日 晴れ 23℃



- ・葉の裏にたまごがある。
- ・たまごは、まだまっていて、黄色で、大きさは1mmぐらい。
- ・たまごは、細長い形をしている。

ひろしさんは、【問題】をもとに、飼育しているナナホシテントウの観察の記録を整理しました。

〈ひろしさんが記録を整理したもの〉

【問題】
ナナホシテントウの育ち方は、どのような順なのだろうか。

5月16日 → 5月19日



大きさが1mmのたまご



大きさが2mmの幼虫

5月28日 → 6月8日



大きさが9mmの幼虫



大きさが8mmの成虫

- (1) ほかの人も、それぞれ次のような【問題】を解決するために、ナナホシテントウを観察し、記録しています。

【問題】
「ナナホシテントウは、こん虫なのだろうか。」



みどりさん

【問題】
「ナナホシテントウは、どこをすみかとしているのだろうか。」



なつこさん

【問題】
「ナナホシテントウは、幼虫から成虫になるまでに、食べ物は変わるのだろうか。」



あきらさん

下の記録は、だれが記録したものと考えられますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

ナナホシテントウの観察
5月23日 くもり 25℃



- ・たまごからかえって4日目。
- ・幼虫が、一産皮をぬいだ。
- ・アブラムシを食べている。

考えたこと
今も、アブラムシを食べているから、皮をくり返しぬいても、アブラムシを食べると思う。

- 1 ひろしさん
- 2 みどりさん
- 3 なつこさん
- 4 あきらさん

ひろしさんは、記録を整理したものをもとに、【問題】「ナナホシテントウの育ち方は、どのような順なのだろうか。」に対するまとめを書きました。



【問題に対するまとめ】
ナナホシテントウの育ち方は、たまご、幼虫、成虫の順である。

しかし、同じナナホシテントウを観察していたあきらさんは、〈ひろしさんが記録を整理したもの〉がじゅうぶんではないことに気づきました。

6月4日にも観察しているので、この記録も参考にしてみてください。



〈あきらさんの記録〉

ナナホシテントウの観察
6月4日 晴れ 26℃



- ・すがたが変わり、動かない。
- ・アブラムシは食べていないようだ。
- ・さなぎになった。

- (2) 〈ひろしさんが記録を整理したもの〉に、〈あきらさんの記録〉を加えます。ふさわしいまとめになるように、上のひろしさんの【問題に対するまとめ】を書き直しましょう。

【正答】（正答の条件）

次の①, ②の全てを記述している。

① 対象がナナホシテントウであることを示す趣旨で解答しているもの

② 育ち方が, 卵, 幼虫, 蛹, 成虫の順であることを示す趣旨で解答しているもの

（正答例）

- ・ ナナホシテントウの育ち方は, たまご, 幼虫, さなぎ, 成虫の順である。

（正答率：全国 67.5% 埼玉県 69.0% 本校 61.2%）

【分析と改善策】

この問題では、ナナホシテントウを対象として、自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、【問題に対するまとめ】を見直すことについて問うものです。

ここでは、自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、【問題に対するまとめ】を検討して、改善し、その考えをより科学的なものに変容させるなど、自分の考えをもち、その内容を記述することが求められています。

自分の考えを検討して、改善するには、自分の観察の記録だけではなく、他者の観察の記録も参考にして、より科学的なものに変容させていくことが大切です。また、得た情報が問題を解決するために必要かどうか、比較したり、多面的に考えたりするといった考え方を働かせることも大切です。

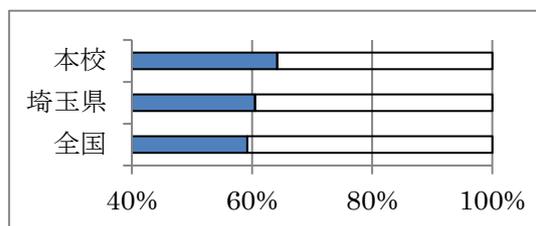
そのため、記録の整理の仕方を工夫して、互いの結果を比較しやすくするよう促したり、意見交換の場を設定したりして、児童が他者の考えや意見を受け入れ、様々な視点から自分の考えを柔軟に見直し、その妥当性を検討できるようにすることの重要性について意識して授業を改善行ってもらいます。

<質問紙調査から>

【質問49】

国語の勉強は好きですか。

〈「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合〉



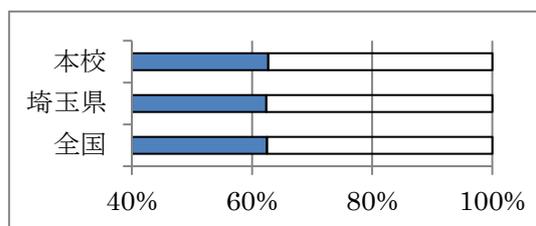
R3 全国 58.4% 埼玉県 57.9% 本校 56.9%

R4 全国 59.2% 埼玉県 60.5% 本校 64.2%

【質問53】

算数の勉強は好きですか。

〈「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合〉



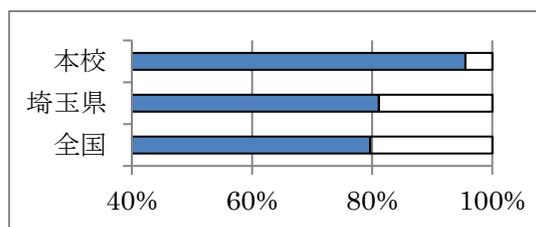
R3 全国 67.8% 埼玉県 66.8% 本校 73.6%

R4 全国 62.5% 埼玉県 62.4% 本校 62.7%

【質問61】

理科の勉強は好きですか。

〈「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合〉



R4 全国 79.7% 埼玉県 81.1% 本校 95.5%

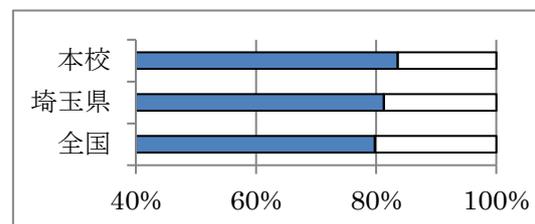
国語の勉強が好きと回答した児童の割合は、全国や県の平均を上回っています。算数の勉強が好きと回答した児童の割合も、全国や県の平均をわずかに上回りました。

理科の勉強が好きと回答した児童の割合は、全国や県の平均を大きく上回りました。

【質問9】

将来の夢や目標を持っていますか

〈「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合〉

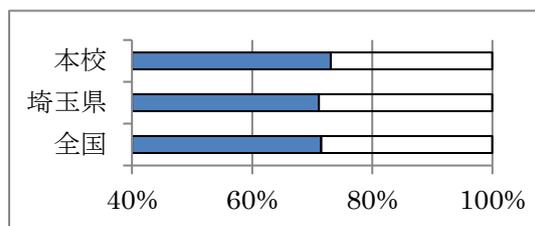


R4 全国 79.8% 埼玉県 81.3% 本校 83.6%

【質問4】

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

〈「きちんと守っている」「だいたい守っている」と答えた児童の割合〉

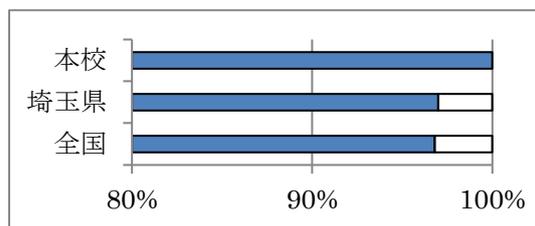


R4 全国 71.5% 埼玉県 71.1% 本校 73.1%

【質問4】

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

〈「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合〉



R4 全国 96.8% 埼玉県 97.0% 本校 100%

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和4年5月11日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
言葉の特徴や使い方	14	65.0	70.2	15	63.9	64.3	15	63.0	66.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	3	56.4	59.0	2	66.4	59.1	2	72.4	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	5	35.7	40.5	5	38.9	49.5	5	58.5	65.3
読むこと	4	55.3	63.1	8	46.9	44.5	8	52.1	57.4
※学力の伸びた児童の割合					↑	↑↑		↑↑↑	↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
数と計算	13	63.7	64.0	13	65.5	62.2	13	59.8	64.2
図形	6	50.0	51.4	8	60.2	56.7	8	55.0	56.7
4年測定 5,6年変化と関係	6	59.6	61.8	5	74.7	74.1	5	66.3	65.0
データの活用	5	70.4	75.7	6	67.8	64.0	6	45.5	50.3
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段: 県の達成率、下段: 本校の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	89.1	91.9	93.8
		90.7	94.7	91.0
	② 授業の開始時刻	87.8	90.9	94.2
		76.0	94.7	91.0
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	79.6	82.1	85.5
		74.7	84.2	83.6
④ 整理整頓	76.2	76.7	79.9	
	73.3	77.6	79.1	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	75.8	75.6	77.7
		77.3	64.5	82.1
	⑥ 返事	85.5	85.6	86.1
		93.3	84.2	85.1
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	82.3	85.1	87.7
		86.7	94.7	92.5
⑧ やさしい言葉づかい	81.8	83.2	83.5	
	78.7	86.8	83.6	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	82.3	84.6	87.2
		82.7	80.3	91.0
	⑩ 話を聞き発表する	75.1	74.5	74.9
		77.3	73.7	79.1
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	81.4	81.9	83.2
		77.3	85.5	86.6
⑫ 掃除・美化活動	89.2	87.6	86.5	
	88.0	81.6	91.0	

本校の学力向上の取組

☆1 教師一人一人が、よい授業づくりを行い、学力向上目指します。

- (1) 「なぜ」、「どうして」が生まれる授業づくりをします。
 - 思考力、判断力、表現力等の育成
- (2) 「学ぶ喜び」が味わえる授業づくりをします。
 - 学びに向かう力、人間性等の涵養
- (3) 「わかるようになる」「できるようになる」授業づくりをします。
 - 知識および技能の習得

■2 基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指した学習の推進

- (1) 一人一人に応じた個別指導や少人数指導、チームティーチングなどに取り組みます。
- (2) 単元開始前にレディネステスト等を実施し、児童の理解度を確認します。
- (3) ワークシート等を用いた単元ごとの習熟度・到達度の確認をします。

授業以外の取組

☆1 学習習慣の定着に向けた取組

- (1) 児童自らが学習の見通しをもって、振り返りを行う学習習慣を身につけるために家庭と連携した自主学習（家庭学習）をより一層充実させます。
 - ・学習環境を整え、学習の習慣をつけましょう。
 - ・自分から計画的に取り組みましょう。（学年×10分+10分）

■2 ICTの活用の推進

- (1) タブレット端末（ICT）の有効活用を図ります。情報活用能力を育成するとともに情報モラルについても指導していきます。

■3 読書活動の充実

- (1) 本の世界（朝読書）では、全校一斉で読書をしたり、図書ボランティアさんによる読み聞かせを行ったりすることにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながる読書習慣の確立や読書力・情報活用能力の育成を図ります。

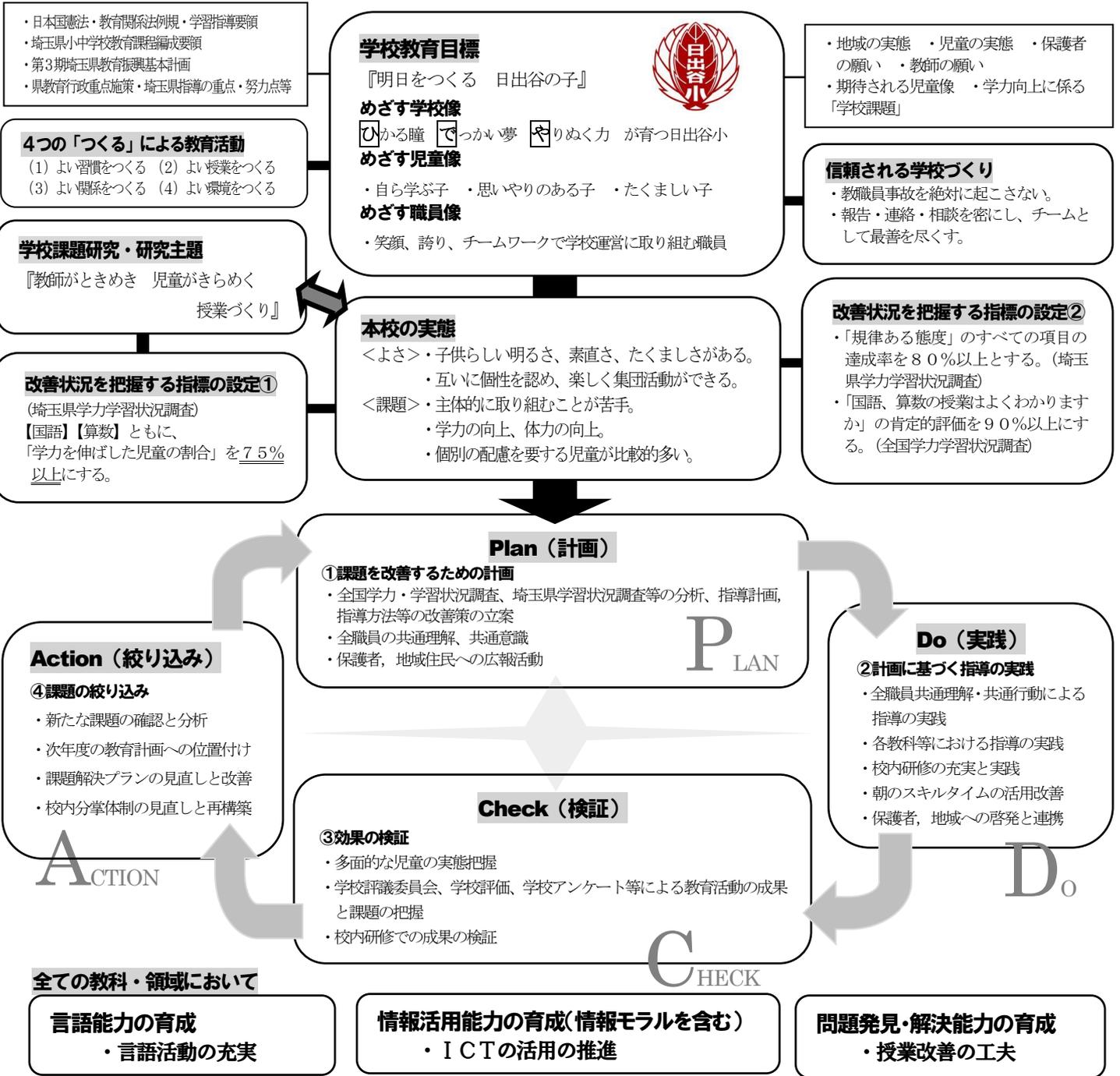
保護者・地域の皆様へ

日頃から日出谷小学校の教育活動に、ご支援、ご協力いただきありがとうございます。
本校の児童は、毎日明るく、元気に学校生活を送っています。その中で児童のよさをさらに伸ばすために学力向上に取り組んでいます。学力向上は学校だけでなく、家庭・地域の連携のもと学んだことを確認したり、生かしたりする場が確保されることで実現します。そのため、学校から発信する各種のお手紙や課題として取り組んだものに目を通していただき、学習内容をお子さんと確認していただくと助かります。これからも本校の教育活動にご理解いただき、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

☆家庭生活において

- ① 規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう。
 - ・早ね、早起き、朝ごはん
 - ・時間の使い方（ゲーム・テレビ等）を家庭でのルールとして決めてください。
- ② 家庭学習に取り組ませましょう。
 - ・学年×10分＋10分を目安にしましょう。
（例：2年生は30分、4年生は50分、6年生は70分）
- ③ 持ち物を準備させましょう。（忘れ物をなくしましょう。）
 - ・授業で必要なものをしっかり用意することが学習の一步です。忘れ物をなくすために家庭で声かけをよろしくお願いいたします。

令和4年度 桶川市立日出谷小学校 学力向上全体計画



改善の観点(具体的な取組)

	I	II	III	IV	V	VI
改善の観点	指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	校内研修の計画と実施の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎・基本の確実な定着を図る。少人数指導等を活用し、個に応じた指導を展開する。体験的な活動を増やす。	日出谷小の実態に合った特色ある教育課程を編成し、教師の授業力を高め、学力の向上を目指す。	「生きる力」を身につけるため、新学習指導要領に関する研修を実施し、年間指導計画等を計画的に実施する。	児童一人一人が意欲をもって取り組み、子供たちのよさを伸ばすことができるように指導と評価の一体化を図る。	研究テーマに迫るため、全教職員の共通理解を図り、授業実践を通して研究を深め、教師一人一人の授業力を高める。	家庭や地域と連携し、学習規律、基本的な生活習慣等を身に付けさせる。
課題解決のための具体的な取組	・基礎学力定着を図るスキルタイムを設定 ・児童の実態や単元の特性に応じた少人数指導の工夫 ・本の世界(読書の時間)の充実 ・各教科における授業の進め方の確立	・各教科、各学年間の系統的、発展的指導の工夫 ・単元の適当時間の工夫 ・体系的な学習、問題解決的な学習の計画的な位置付け ・放課後の授業準備時間の確保と教科研の充実	・年間指導計画の見直しと改善 ・教材教具の作成と工夫 ・言語活動の充実を図る指導計画の作成と実施 ・情報の選択、活用方法や情報モラルの指導の工夫	・学習のねらいの明確化 ・単元テスト、ワーク、プリント等の工夫と実施 ・評価、評定の規準や手立ての工夫 ・自己評価、相互評価など評価方法の工夫と改善	・PDCAサイクルを意識した研修計画の立案 ・研究組織の創意工夫 ・校内授業研究会の実施 ・市教育委員会等関係機関との連携	・学校は複刊の活用 ・「日出谷小、よい子のやくそく」の徹底 ・「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の啓発と学習習慣の定着 ・生活習慣の改善を図る家庭教育の啓発
関連する行事等	・スキルタイム ・本の世界 ・課題研究推進委員会 ・授業研究会	・校内研修 ・企画委員会	・校内研修 ・企画委員会 ・教科領域等部会	・校内研修 ・通知表締切委員会	・校内授業研究会 ・県・市教委、学校訪問での授業公開、授業研究 ・市教研究委員会	・学校公開・学校便り ・授業参観、懇談会 ・PTA総会 ・個人面談